

深イ～話！

No.13

——「たった一度の人生を悔いなく生きるために大切なこと」(青山俊董 著)——

【私が変われば相手が変わる】

弟子たちがいう。

「赤ん坊を抱いたとき、先生いちばんいい顔してますね」と。

あえてするわけではないが、思わずそうになってしまうのであろう。

赤ん坊の仏心そのものともいえる無垢な笑顔にもよおされ、引きだされて、

私の中の仏心が、無垢なるものが飛び出してくるのである。

どこへ行ってもうまくゆく人がいる。

どこへ行ってもうまくゆかない人がいる。

原因は向こうにある、相手にあると思っではいけない。行く先々に私の世界を展開して歩いているのであり、自分の投影を見て歩いているのである。

私の中のイライラが、相手の中のイライラを刺激し、引っぱりだしているのである。

赤ん坊の無垢なる心に、私の中の無垢なるものが目覚めさせられ、引っぱりだされるように。

「越後の良寛さま」といえば知らない人はないほどに親しまれている良寛さまは、出雲崎の名主の長男として生まれたが、のちに出家し、備中・玉島の円通寺で修行を修めてから故郷に戻り、空庵を転々とした後、国上山の五合庵で枯淡な生涯を送られた。

その良寛さまがたずねてくださると、説教らしきことはなにもなさらず、ただ家族みんなとたのしげに囲炉裏をかこみ、お茶を飲んでゆかれるだけなんだけれど、帰られたあとの数日は。家中の者がみな素直になり、ほかほかとあったかいということを伝え聞いている。

相手のほうに変わることを求めてはならない。うまくゆかないことを相手の責任にしてはならない。まず私が変わること。私が変われば相手が変わり、私が変われば世界も変わる。

